

～ 平成28年度 当初予算 ～

平成28年度予算は、「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」の実現を目指し、年間12,000人の出生数を維持し、若者の神戸市への転入を増やすことなどを目標に編成されました。要求額に上限を設けず必要な施策に予算を大胆に計上する一方、財源と人材を有効活用するため事業の見直しも行なわれている内容になっています。

<予算規模>

	平成28年度	平成27年度	増△減
一般会計	7,273億4,200万円	7,281億7,400万円	△8億3,200万円(△0.1%)
特別会計	7,286億4,300万円	7,486億2,300万円	△199億8,000万円(△2.7%)
企業会計	3,161億2,400万円	3,307億6,000万円	△146億3,600万円(△4.4%)
合計	1兆7,721億 900万円	1兆8,075億5,700万円	△354億4,800万円(△2.0%)

～ 当初予算における主な施策(一部) ～

◆ ウォーターフロント地区の魅力向上 ◆



拡充 新港突堤基部

- 次期再開発に向けた国有地取得等

拡充 第3突堤基部

- 総合福利厚生施設の整備
(仮称)ポートセンター

拡充 メリケンパーク再整備

- 元町から行きやすく改善
- 照明整備など夜間景観の魅力向上
- カフェなど新たな施設の導入による賑わいづくり
- 広大な芝生広場整備等による憩いの場の創出



賑わい・活力

魅力と活力にあふれた
都心・ウォーターフロント
『港都 神戸』の創生

回遊性・おもてなし

拡充 ウォーターフロント地区のプロムナード整備

～回遊性・安全性向上の取組み～

- ウォーターフロントエリアの東西軸の強化
・プロムナード整備
- 都心からウォーターフロントへの南北軸の強化
・歩道改良
- 市街地と連続した戦略的な歩行者誘導
・案内サイン整備



拡充 ポートターミナル周辺改修

- ターミナル機能の強化
・東側デッキ改修
・インフォメーションブースの改修等



◆ 子育て世帯の経済的負担の軽減 ◆

新規 多子世帯の保育料の軽減

- 年収約520万円以下の世帯について、多子計算にかかる年齢制限が撤廃され、保育料が軽減されます。

～新たに第2子・第3子に計算する子どものイメージ～

【現行】

幼稚園：小学3年生以下
保育園：就学前

【H28年から】

**年齢制限を
撤廃**



- 幼稚園の場合
小学4年生以上は計算しない
- 保育園の場合
小学1年生以上は計算しない



第1子
として
計算

拡充 乳幼児等・子ども医療費助成制度の拡充

- 7月から外来自己負担金がさらに軽減されます。

現行		拡充後	
所得制限	0～2歳までなし	未就学児までなし	
外来自己負担金	0～2歳児 無料 3歳～中学生 1日500円上限	無料	1日400円上限

※自己負担金はすべて1医療機関等ごとの上限額(月2回まで、3回目以降無料)



第1子
(全額)

第2子
(半額)



第2子
(半額)

第3子
(無償)